



湾岸・アラビア半島地域ニュース

イラン：ブッシュ米大統領の中東訪問に関するイラン側反応 (1月13-14日アルジャジーラ、現地 IRNA 報道)

1. モッタキ外相発言 (13日夜、アルジャジーラとのインタビュー)

(ブッシュ米大統領が、イランがテロリストを支援していると非難していることについて) イラク攻撃から6年たった今、我々は米国がテロリストや過激派と秘密裏に交渉しているのを目にしているが、米国がこのような過激派を誰よりも支援してきたのであり、オイル・ダラー及び米国が費用を負担してテロリストの訓練を長年行ってきたことが、中東地域内において過激主義伸張の元凶となっている。

ブッシュ米大統領のヒステリックな態度及びアブダビにおける根拠のない発言は全て、同大統領が自らの中東ミッションに失敗したこと示している。これらの失敗に加え、ブッシュ米大統領はパレスチナを支援する全ての人々やパレスチナの闘士達をテロリスト呼ばわりし、地域諸国の国民を侮辱した。

ホルムズ海峡での問題は米国による作り話である。米国が当該地域への内政干渉から手を引けば、地域諸国は外国の軍隊を必要とせずとも地域の安全を確保することができる。ブッシュ米大統領はイランと地域諸国の間に亀裂を生じさせるべく無駄な努力をしているに過ぎず、今回の訪問も失敗に終わった。

2. ホセイニ外務報道官の発言 (14日 IRNA 報道)

ブッシュ米大統領の発言は失望の表れであり、大統領任期終盤における敗北を意味している。同大統領は、イスラエルのシオニズム政権を一方的に擁護しようとして、イスラム諸国及びアラブ地域の同意を得ることに失敗した。

同大統領は、任期最後の年に、過去7年間に及び同政権の行動がもたらした深刻な過ち、すなわち戦争主義、占領主義といったスローガンによって、米政府自身が世界的なテロの拡散、脅威の拡大及び不安定をもたらしたことを隠そうと躍起になっている。同大統領のイランを孤立させようとする発言は、過去数十年の覇権主義的、植民地主義的外交を想起させるものである。

我々はブッシュ米大統領に対し、残りの任期中、米国国民及び世界の世論の要望を尊重し、正道を逸した宣伝や欺瞞を捨て、グアンタナモの牢獄における恐ろしい拷問を停止することで、米国社会の個人及び社会の権利の明白な侵害に関する米国民の不安に注意を喚起しつつ対処し、外交政策の分野においても理性主義かつ合理主義の方向に進むことをお勧めする。